

写真展「忘れない東日本大震災—あれから10年」

当時の被災地の写真のほか、被災当事者が自ら撮った写真に声(メッセージ)をつけたフォトボイスなどを展示します。

【日程】3/9(火)～3/15(月) 入場無料

【時間】10:00～20:00 (最終日は16:00)

新型コロナウイルス感染防止のため、変更の場合あり

【場所】そごう千葉店 地下フォトギャラリー

【主催・問合せ】福島県県外避難者相談センターちば

TEL080-5418-7286

(月～金10:00～17:00 避難者の方からの相談も、上記電話で受け付けています)



千葉県災害対応ネットワーク準備会 オンライン開催のご案内

多発する災害に対応するために、行政、社協、NPO、企業等の枠組みを越えたネットワークづくりを千葉県で進めるための準備会です。関心のある団体の皆さま、ご参加ください。

【日時】3/16(火)15:30～18:00 Zoom開催、参加無料

【問合せ・申込み】千葉県南部災害支援センター(運営団体窓口:NPOクラブ 下記連絡先まで)

オンライン講演会「地域とつながるものづくり⇒新しい価値をつくる」

「福祉」から「地域づくり」へとつながるコトをみんなで共有しましょう。

【日時】3/29(月)13:00～15:00 Zoom開催、参加無料

【内容】講演 北川雄史さん(社会福祉法人 いぶき福祉会)

県内事例紹介 国府田憲治さん(NPO法人千葉県障害者就労事業振興センター)

【主催・申込み・問合せ】NPO法人 地域創造ネットワークちば

Mail: souzounet@coast.ocn.ne.jp TEL: 043-270-5601 (3/24申込み締切)

プロボノプロジェクトを今年度も実施しました

社会人ボランティアが経験やスキルを活かし、地域で活動する団体の運営面を支援する「ちばプロボノチャレンジ2020」。今年度は千葉県内の10団体を28名で、昨年11月より支援してきました。コロナ禍のなか主にオンラインでの活動となったため、難しさはありましたが、より幅広い地域からの参加もあり、距離を越えた関係性や新たな進め方にもつながりました。



《編集・発行》 特定非営利活動法人(認定NPO法人) ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂5-21-12 TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689

Mail: npo-club@par.odn.ne.jp URL: http://npoclub.com

ブログ: http://blog.canpan.info/npoclub1

Facebook NPOクラブで検索 Twitter NPOクラブで検索

・運営会員 23名 賛同会員 100名 発行 800部 会員・県内市民活動支援センター・自治体等にお届けしています。

会員・寄付
募集中!



News Letter

VOL.72 2021.3



つぎのいっぽん

地域力、福祉力、市民力 チカラをあつめる、つなぐ、高める、広げる～市民が主体の地域づくりを!



東日本大震災から10年。福島県から避難されている方々とともに

10年前の3月11日、その災害規模については「まさか」の連続でした。そして東京電力福島第一原子力発電所の事故。暮らし方の根本を考えさせられる災害となりました。

千葉県への避難者数 ピーク時には約3,500人、現在も2,070人(2021.2.8現在)

被災地・被災者のお役に立てることは何かないだろうか? NPOクラブも震災直後から避難者支援に取り組みました。震災から半年後には福島から千葉県内に避難された方を訪問し、生活の様子や被災体験などの聞き取りを始めました。その取材記事は、広報浪江「なみえのこころ通信」への掲載のほか、避難者向け情報紙「縁joy」を当団体で継続的に発行し、掲載してきました。

避難者それぞれに、立場、境遇、環境、思いなどが違い、接し方の「難しさ」を聞き取りでは痛感。この後、公的支援、東電からの補償・賠償の違いもあり、避難の長期化から避難者の抱える課題は、個別化、深刻化してきました。

避難者とともに、見る(現地視察)、聞く(勉強会)、話す(交流会)を続けた10年

被災地視察(2015.3月実施)では、積み上がった除染土壌を詰めた黒いフレコンバックに息を飲み、第一原子力

発電所内の視察(2018.1月実施)では、時間が止まったままの様に胸が詰まる思いを経験しました。また、勉強会などを通して大事な視点に気づかせてもらいながらの活動でした。一例を紹介します。

- ・「神戸では、20年経っても寄り添う支援は必要とされ継続している。東北は、まだまだこれから」(2016.3月の勉強会で、NPO法人阪神淡路大震災よろず相談室の牧秀一さんのお話より)
- ・「原発事故当時の一番悲惨な時点の情報で止まっている。正しい情報発信の必要性を感じた」(2020.11月の交流イベントでの「福島の花」写真家 野口勝宏さんの講演で。一昨年アメリカで「福島には花は咲くのですか?」と質問を受けたというエピソードから)

被災地では帰還者の受け入れも始まっていますが、避難者の高齢化に加え生活環境が整っていない不安から、帰りたくても帰れない状況です。

NPOクラブでは、2016年より福島県からの委託で、「福島県県外避難者相談センターちば」を開設し、住いに関する問い合わせを中心に、避難者のお困りごとに対応してきました。これからも千葉に避難されている方々との関わりを継続し、県民に向けて「東日本大震災を忘れない」のメッセージを発信していきます。

千葉県市民活動団体マネジメント事業

「Withコロナ」での活動を考える『ちえのわ』 情報交換・課題共有し、次のステップへ！開催報告

2021年2月10日(水)14:00～16:30
オンライン(Zoom)開催 参加43名

「新型コロナ」で活動の停止、縮小をせざるを得ない団体が多く
なっている一方で、生活不安を抱える人が増えています。分野の異
なる5団体の方に、現在の活動の状況、工夫していること、新たな
気づき、課題について報告いただき、参加者間で意見交換しました。



～コロナ禍での地域のニーズと活動についての事例報告～

「子ども食堂からその先へー食と安心を届けよう」 とうかつ草の根フードバンク 高橋 亮さん 流山市 簗ヶ崎1273 TEL 090-2733-0555 高橋さん

〈活動・事業概要〉

東葛地域6市(松戸、柏、流山、我孫子、野田、鎌ヶ谷)の
子ども食堂ネットワークで設立・運営。「子ども食堂からその先
へ」をテーマに子ども食堂を通して必要としている家庭に食品を
提供し孤立させない活動を行う。6市限定とすることで発送コ
ストや手間をカット。地域密着型フードバンク。

〈Withコロナでの活動・事業〉

フードパントリー等以外に個別食料支援にシフトして継続中。
行政や支援団体からの緊急支援要請に基づき対象者の近く
の子ども食堂実践者が食品を届け、つながりを継続している。
2020年4月～5月:「コロナに負けるな緊急アクション 食と安
心を届けよう!」
約12トンの食糧が集まり、多くの子ども食堂が「フードパント

リー(食品配布会)」や「弁当配布会」を実施して2千人以上の
方々にお渡しすることができた。

〔直近の事例〕

市の担当者から「幼児を抱える母親。所持金200円でライ
フラインもいつ止められるか分からない。食料支援をしてくれな
いか」→その日のうちに倉庫から必要な食料とオムツ、粉ミルク
を持って行き近隣の子ども食堂代表につないだ。その後ご本
人からのメールで「頼れる親族もおらず途方に暮れていた。家
族全員の命が救われた。」

民間だからこそできることがある。公平性にとらわれない支
援、迅速な対応、つながりを作り継続する
それは地域だからこそできること。

「コロナ禍における自然体験活動」 NPO法人千葉自然学校 富田 拓郎さん

千葉市中央区富士見2-3-1 塚本大千葉ビル7F TEL 043-227-7103

〈活動・事業概要〉

海や森、雪山をフィールドに、子ども対象のキャンプやスキー、
野外炊飯、クラフト、レクリエーション、ハイキングなどの自然体
験企画を運営している。

なぜ？自然体験活動が必要か？

キーワード

1. 子ども (将来を担う)
2. 自然 (五感をフルに使う機会に恵まれる)
3. 体験活動 (自ら、感じ考え、行動する場)
4. 宿泊 (親元離れての生活体験が大切)
5. 団体生活 (異年齢集団で活動、協調性を養う)

〈Withコロナで見えたこと〉

- ・子どもの元気を取り戻したい サマーキャンプのテーマ「みんな
に広かれ!元気のWA」
- ・体験活動は不要不急ではないが、必要な体験を届けたい。

〈Withコロナでの活動・事業〉

ドラム缶風呂は入れるの？バスの乗車定員は？食事の配膳方
法は？レクリエーションの内容は？など対処法が手探り状態。
新型コロナへの対応→全国ネットワークの力で情報共有
・ガイドラインの作成・参加者の理解と協力・スタッフ教育
今まで以上の感染症対策、実施定員の削減を行い、事業を
継続している。体験活動をなくさない!継続すること!安心安
全の確保と必要性を伝え理解してもらうことを続けたい。

「ママになったその日から、一緒に子育て」 一般社団法人マザーズコンフォート 大谷 明子さん

千葉市若葉区西都賀3丁目17-11TUGAnoわ 子ども食堂2階 TEL 043-254-1788

〈活動・事業概要〉

- ・子育て相談:電話、訪問、来所相談
- ・居場所:「ぐ〜たらな・とこ」ママの居場所の提供、ママたち
の自発的な活動をサポート
- ・子育てプログラム:母支援の中で母自身のケアを行う 母乳、
離乳食、栄養講座、タッチケアなど

〈Withコロナでの活動・事業〉

- ・子ども食堂とコラボパントリー:2021年1月に入り多くなってい
る1〜2件→10件ほど
- ・おせち、年越しそば:母子たち、女の子たちに配達した。

- ・アニマルセラピー:ママや子供、女の子たちを対象に月1回開
催(緊急事態宣言中は休止→2021.3月より再開)。不登校
気味の子や家族環境があまり良くなり不安定になりやすい子
ども、精神疾患を患いながら子育てをしているママの癒しと
なっている。コロナ禍で参加者が増えている。
- ・妊娠期の支援:コロナ禍で母親学級などが中止になっており、
出産退院後の育児体験をしていないため、不安が強く、かな
りのフォローが必要。
- ・女の子支援:家庭での居場所がない。母との関係が悪く家
にいたくない。→2021年2月に、新たに女子の居場所「パー
チハウス」設立

「無料学習教室の現場から」 NPO法人ダイバーシティ工房 宮坂 奏子さん

市川市市川1-9-1 AKIOビル4階 TEL 047-711-1136

〈活動・事業概要〉

食事つき無料学習教室、コミュニティカフェ、無料LINE相
談、発達障害を持った子どもへの個別学習支援、保育園、自
立援助ホームなどの事業を通じて0〜20歳の子どもやその家
庭を支援。

「プラット学習教室」:毎週月・金曜日、中学生対象(※小学
生・高校生は要相談)、学習で悩んでいるすべての子どもを対
象に、学習指導、進学支援、食事の提供を行っている。利用
料は無料、参加者は18名。

〈Withコロナで見えたこと〉

- ・学校の休校で見えた中学生の姿:「給食がなくなった…栄養
バランスが崩れてつらい」「家にWi-Fiがない。長時間のオ
ンライン授業は難しい」「塾辞めちゃった。受験生になったか
ら料金が上がった」

- ・困窮する高校生たちの姿(定時制高校の先生から):いつも
同じ服装、お風呂に入れているのか?授業後に夜勤バイトへ。
コロナでバイトが減った。

〈Withコロナでの活動・事業〉

2020年3月:学校が休校→学習教室を閉鎖
4月:オンライン授業を開始
5月末:教室再開、お弁当を注文し、配布。人数制限を設け、
時間入れ替え制に。
7月:調理復活。通常通りのスケジュールに。月曜日を新たに
開設、週2にして人数を分散
2021年1月:食事を中止に。お弁当を注文し、子どもとその
兄弟分を配布。
2月:プラットでお弁当を作り、配布開始。高校生への食材配
布…月2回駅前のコンビニで10名程度の高校生に配布。

「コロナ禍で今できることは何だろう」 NPO法人船橋ウォーキング・ソサイエティ 佐藤 ヒロ子さん

船橋市丸山1丁目50番4号 TEL 047-438-8818

〈活動・事業概要〉

定例会の実施3会場で月7回、有資格者による指導&コー
チング(2本のポールを使うウォーキング、美・姿勢ウォーキ
ング)、体験会、親睦会、講師派遣(公民館・市民大学・UR)、
指導部勉強会(指導員スキルアップ勉強会月1回)、情報発
信、他団体との交流会、その他

〈Withコロナでの活動・事業〉

	定例会	オンラインエクササイズ	合計
実施期間	7/7〜12/15	4/4〜7/18, 12/19〜2/6	
実施回数	23回	33回	56回
参加人数	431名	289名	720名

- 会員のオンラインエクササイズへの反応
- ・この声かけがなければ運動をしない
 - ・生活のリズムができた
 - ・一人ではいい加減になるが皆でやると良い汗をかく
 - ・お互いの顔も見えて張り合いがある
 - ・はよりのオンラインで嬉しい

【今できることはこれ!】

コロナフレイル・孤立化・鬱予防が課題→解決策:運動習慣
の継続と人との繋がり大切。
有効な運動「ストレッチ」「筋トレ」「ウォーキング」をみんなで
継続、元気にこの町で歳をとる。

〈受講者アンケートから〉

- ・コロナに負けず、「今だからこそ、この活動が…」の心意気とパワーが凄いなぁとやる気をもらいました。
- ・「できない」で終わらせず、できる工夫を実現している点が学びになった。
- ・オンラインが安定しなかったこと、参加者同志のふれあい?ができなかったことが残念。